

〈大賞〉 土地の Baton

若狭 早

春のお楽しみは、うんどう会とタケノコほり。うんどう会のリレーで学んだ「Batonをわたす大切さ」は、タケノコがぐんぐんそだつ「土地」にも当てはまる。それに気づけたのは、ぼくのまわりの人のおかげだ。

ぼくのしんせき「まーおいちゃん」は、おばあちゃんのいとこ。いつも山とはたけを手入れして、しゅうかくしたおやさいを分けてくれる。まーおいちゃんは、「よっしゃ、うちの山からとってきちゃろ。」と言って、けいトラックですぐ山に行ってくれる。これができるのは、ふだんから草かりをして、自分の土地をかんりしているからだ。ごせんとさまから、いのちといっしょにうけついできた土地。手入れしなければ、土地はどんどんあれてしまう。

ぼくのすんでいるえひめけんは、せいびされていない竹林がふえて、もんだいになっている。竹は、一日でぼくの高さまでのびるくらい、せいちょうが早い。でも、ねをはるのは土のあさいところだそう。だから山のしゃめんの竹林をほったらかしにすると、土をしっかりとささえられない。ほかに、たいりょうのおちばが「さいがよい」につながることもある。今年の三月、えひめけんいまばり市でおきた大きな山火事。火がどんどん広がったりゆうの一つは、手入れされずふえすぎた竹林だとニュースで聞いた。ぼくたちがあんぜんにくらすためにも、土地のかんりは本当に大切なことだと思う。

竹林せいびの名人「としさん」は、ぼくのおばあちゃんのお友だち。竹の間引きについて、ぼくはとしさんに教えてもらった。「まずは草かりをして、マムシに気をつけながらノコギリで竹を切るんよ。間引いてすっきりした竹林は、いい風がふくけんね。」ぼくも早く大きくなって、ノコギリをつかって竹林せいびがしたい。それまではタケノコほりをがんばって、少しでもやくに立ちたいと思う。タケノコの生えているむきに気をつけて、まわりの土をほる。あせだくになりながら、ぼくがほったタケノコは十本。お家にもって帰って、おばあちゃんとお母さんにりょうりしてもらった。「タケノコごはん、おいしいよ！」たくさんのタケノコごはんは、まーおいちゃんにもおすそ分け。土地の手入れができて、まわりの人によるこんでもらえるタケノコほりが、ぼくは大すきだ。うけついで土地を正しくかんりして、つぎの人にとどけていくこと。そのためには、だれのものか分からない土地をなくすひつようがある。土地のせいどを知って、みんなで「土地のBaton」をわたしていこう。できることから始めれば、きっとすてきな土地がふえる。

また来年、ぼくはタケノコほりに行く。今から春がまち遠しい。